

平成30年6月25日（月曜日）午後2時0分開議

○議長（北 良晃君） 16番三橋君。

（16番 三橋和史君 登壇）

○16番（三橋和史君） 三橋でございます。

県立高等学校適正化実施計画案の議決の延期と説明を求める意見書案につきまして、私は賛成の立場で次のとおり討論を行います。

平成30年6月8日に奈良県教育委員会が発表しました今回の計画案におきましては、県立奈良高等学校、平城高等学校、西の京高等学校や登美ヶ丘高等学校など、奈良市内に存する多くの高等学校が移転や統廃合の対象とされているところであります。

とりわけ平城高等学校を事実上の閉校とし、その跡地に奈良高等学校を移転させるという内容につきましては、前代未聞の再編計画であるとして、反対意見や見直しを求める意見が相次いでおり、在校生や受験生、保護者、卒業生などの思いや意見を無視したものであると言わざるを得ず、ひいては過去、先人たちが積み重ねてきた奈良県の公教育のあり方を揺るがすものであり、現在及び将来の県民の理解を得られるものとは到底考えることができないのであります。

奈良高等学校の現地建てかえと平城高等学校の存続を求める声が強くなっています。

奈良高等学校の歴史は古く、旧制中学校としてのその始まりは、奈良市中心部における設置が望まれていたことを受けてのことであり、開校した大正13年から既に奈良市法蓮町において地元地域に支えられながら、歴史を歩み続け、既に3万人もの卒業生を輩出してきた実績があります。歴史的にも名高い佐佐木信綱先生作詞の同校校歌には、「春日山まぢかく佐保路にそひてよき環境に恵まれ」という、現在の法蓮町地内における校舎の立地と学校環境をたたえる内容がうたわれており、生徒たちが推敲した生徒会規約前文には、「本校を愛情と気概を持って自らから支える責務を共有し、自由かつ公正で活力ある本校の永遠の繁栄を目指すことを決意する」という旨がうたわれているのであり、今までに引き続き、法蓮町地内に校舎を構えることは、奈良高校が奈良高校であることのゆえんであり、同校のアイデンティティーの重要な要素の一つをなすものであります。

同校の現在の敷地内の施設は、巨額の費用を投じて建設した比較的新しい建物も複数存在しており、安易に移転させることは、県が利点として主張する公有財産の有効利用の観点からも必ずしも有利なものとは言えないばかりか、たとえ校名がそのまま残ったとしても、それにより長きにわたって築き上げてきた同校の「学び舎」としてのよき環境を失う可能性さえ否定できないことに鑑みれば、その代償ははかり知ることのできないものと評価せざるを得ません。

主要建物である本校舎の老朽化については、かねてより指摘されてきた問題であります。しかも私の調査では、同校の現地建てかえに向けた計画が県教育委員会内に以前には存在し、設計業務まで行われていたにもかかわらず、これが現在まで実施されず、そのように放置されてきたという経緯をたどっていることも判明しており、立地的にも現地建てかえが困難であるという事情は決して認められないのであります。そして、移転させることが本校舎の老朽化に早期に対応する唯一の方法であるかのように捉えられている節もありますが、計画案によれば、移転時期は早

くとも4年後であり、現地建てかえを前提として仮校舎を手配するという対応によったほうが、同校舎の耐震問題に早期に対応できるものであることは明らかであります。

平城高等学校については、開校以来既に40年近くが経過し、朱雀地域との交流を深め、卒業生は既に1万5000人近くにも上っております。しかも、同校への入学を志望する中学生は現在も非常に多く、入学者一般選抜における競争率は、県内でもトップクラスの人気校であるということは、誰であっても異論を差し挟む余地のない事実であります。

両校ともにすばらしい伝統と実績を誇る高等学校であり、平城高等学校を事実上の閉校とし、その跡地に奈良高等学校を移転させるというのは、教育上、財政上、その他いかなる観点からも、その正当性を欠くものと言わざるを得ません。移転や閉校の対象とすることの必要性は、全く見当たらないのであります。

まして、平城高等学校の卒業生や保護者らによる反対運動が広がりを見せ、さらには地元地域からも同校の存続の要望が上がっており、他校に校舎を明け渡すことについては、関係者以外からもまるで乗っ取りであると批判されるまでに至っており、今回の計画を強行するようなことになれば、両校の生徒にとって不幸な結果を招くものではないかと懸念するところであります。

また、言うまでもなく、県立高等学校の再編については、奈良市立中学校における生徒に対する進路指導にも重大な影響を及ぼすものであり、中学生らにとっては自身の人生を左右する重大な関心事であります。市立中学校のあり方については、県立高等学校のあり方と表裏一体をなすべきものであるにもかかわらず、今回の計画案の発表に当たり、事前に県から奈良市教育委員会に説明がなかったという過程は、奈良市立の各中学校はもとより、県内の各中学校に通う中学生に対する影響を無視したものであり、到底看過することのできない明白な瑕疵があると言わなければならないのであります。

総じて、今回の計画案の決定過程は不透明であり、広く県民の意見を聞いて行われたものとは認めがたく、学校というのは在校生や保護者、卒業生、地域住民などを初めとした関係者の理解と協力を得て、初めて適切な運営が行われるものであるということに鑑みれば、今行われようとしているような、まるで公権力の行使を思わせるような強制的、一方的な進め方については、それに対する非難は決して免れることはなく、しかも今後も広く県民の意見を聞く予定がないとする県教育委員会の姿勢は、さらに問題を深刻化させるものであると憂慮するものであります。

学校の設置主体が奈良市であっても、奈良県であっても、それには関係なく、教育というのは国民一人一人の自己実現にとって不可欠な要素であると同時に、国家の礎をなすものであります。国家百年の大計である教育施策を誤るようなことがあれば、現在の奈良県内の政治家はいかにしてもその罪を滅ぼすことはできないのであります。

以上を踏まえ、私は奈良高等学校の現地建てかえと平城高等学校の存続を求め、その他の内容についても、関係者の理解を得られている部分を除いて、広く県民の理解が得られるよう計画案の見直しを要求するものであります。

よって、本意見書案の内容は、やや穏便に過ぎる部分が含まれると思料されるところでありますが、論旨は共通するものでありまして、賛成する次第であります。

議員各位と市民の皆様の御理解と御賛同を賜りますよう、私からもお願い申し上げます。

以上でございます。

○議長（北 良晃君） 他に討論はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（北 良晃君） 討論なしと認めます。

これより採決いたします。

意見書案のとおり可決して、提出することにいたしまして御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（北 良晃君） 異議なしと認めます。

よって、意見書案を可決し、提出することに決定いたしました。

ただいま可決されました意見書の提出先、方法等は議長に御一任願います。

動議

県立高等学校適正化実施計画（案）の議決の延期と説明を求める意見書

意見書案のとおり可決と決定

○議長（北 良晃君） 16番三橋君。

（16番 三橋和史君 登壇）

○16番（三橋和史君） 諮問第1号、使用料の徴収等に関する処分についての審査請求に係る諮問につきましては、意見を付して賛成いたします。

本件につきましては、下水道使用料の免除申請に対して、平成29年6月27日付で不承認処分が行われ、それに続いて督促等の処分が行われた後、9月26日付で審査請求が行われたものであります。

本件に関連しましては、奈良市との間で同一人による類似の争訟が長期間により行われ、平成15年には大阪高等裁判所において、水道料金免除申請に対する拒否処分について理由不備があったことが指摘され、手続的違法があったものとして当該処分が取り消され、最高裁もこの判断を支持した経緯があり、その後は奈良市において一貫性のない対応が行われてきたことも事実であると認められるところであります。

これらの経緯を踏まえますと、本件不承認処分に係る手続については、特に万全を期して臨むべきであるということは、言うに及ばないところであります。そして、行政手続条例第8条第1項に規定する理由の提示があったというためには、諮問内容にも確認されているとおり、その理由の記載それ自体から、処分についてどのような法令上の根拠に基づき、当該法令上の規定をどのような事実関係に適用なされたものであるかが了知することができる程度に具体的にされている必要があるところ、処分庁により発出された通知書に記載の理由内容を検討すると、減免申請を拒否する事由となるべき事実の認定に関する判断に係る部分は万全を期したのものとは言えず、条例の目的や趣旨を完全に満足させるに足りる手続が行われたとは言えないものと思料いたします。

ただし、適法ないし違法の判断という最低限の基準に照らせば、今回の諮問内容を是認するものであり、諮問第1号には賛成するものであります。

なお、前述のとおり、当不当の判断としては必ずしも妥当な手続を経たものとは言いきれない

のではないかという疑義が残り、本件審査請求人には丁寧な説明に努めることはもちろんのこと、今後、奈良市の各機関としては、ほかの案件においても万全の手続を目指すべきものであるとの意見を付して賛成討論いたします。

以上でございます。